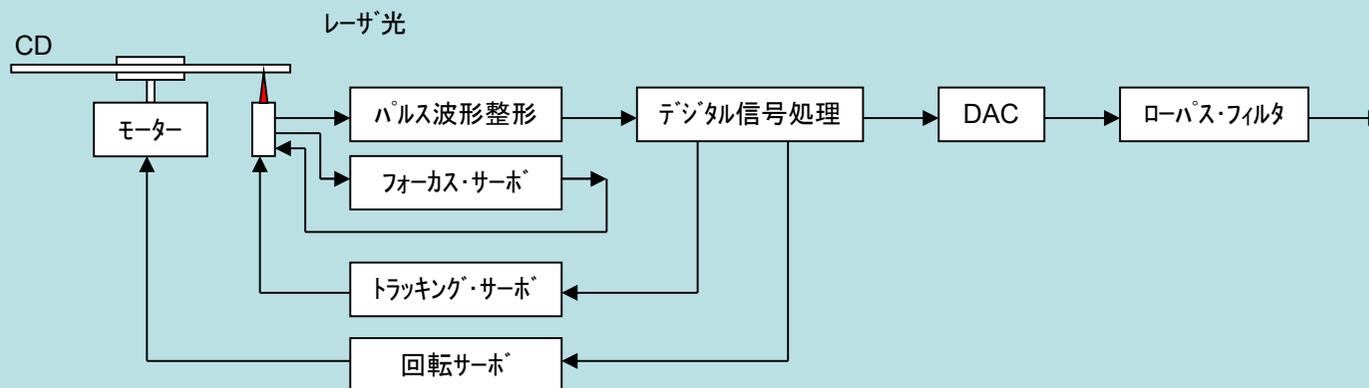


CDプレイヤーについて

1980年、ソニーとフィリップスはCD規格で提携し、1982年、日本の9社が一斉にCDプレイヤーを発売した。操作性、小型等の利便性から急速に普及したが、音感上、冷たい音等の感性上の問題点が指摘され、その後、各社は数多くの改良の行う。



記録容量	74分
コーデック	44.1kHz リニアPCM2.0chステレオ
読み込み速度	1.2Mbps(150kiB/s、1倍速)
回転速度	200 - 530 rpm
読み取り方法	780nm赤外線レーザー



CDプレイヤーの改良の歴史(=アナログ特性の改良)

1982	CD-63(MARANZ)	オーバーサンプリング	低雑音化,アナログFL簡略
1984	DAD-001(Lo-D)	セパレート・システム	デジタル・ノイズ遮断
1985	C-700(ONKYO)	光伝送	デジタル・ノイズ遮断
1986	CDX-2200(YAMAHA)	18 bits DAC	再量子化雑音低減
	DP-80(Accuphase)	光デジタル出力	デジタル・ノイズ遮断
1987	CDP-R1(SONY)	DACマスター・クロック	ジッタ低減
1988	CD-α717(SANSUI)	1 bit DAC	リアリティ改善
	DCD-3500(DEON)	20 bits DAC	再量子化雑音低減
1990	PD-T07(Pioneer)	ターンテーブル・モタ	ジッタ低減
1992	DP-90(Accuphase)	複数DACの並列加算	ジッタ低減
1993	D-3(TEAC)	サンプルレート・コンバーター	ジッタ低減
1994	DP-7060(KEWOOD)	適応型デジタル・フィルタ	波形スムーズネス改善
1996	CDP-T07HS(SONY)	デジタル・フィルタ複数搭載	リスナー特性改善
	PD-T07HS(Pioneer)	24 bits DAC	波形スムーズネス改善